

次世代研究者挑戦的研究プログラム 説明資料

令和 7 年 7 月 2 4 日

事業統括：弘前大学大学院理工学研究科長
金本 俊幾

国立研究開発法人科学技術振興機構（J S T）

次世代研究者挑戦的研究 プログラム

Support for Pioneering Research
Initiated by the Next Generation
(**SPRING**)

「次世代研究者挑戦的研究プログラム」は、我が国の科学技術・イノベーションを担う人材を育成するため、優秀で志のある博士後期課程学生が研究に専念するための経済的支援（生活費相当額及び研究費）及び博士人材が産業界等を含め幅広く活躍するためのキャリアパス整備を一体として行う実力と意欲のある大学を支援する事業です。

プロジェクト概要

本学は本プログラムにおいて、本学の「強み」である①健康社会医
理工学研究②半導体、エネルギー分野の技術開発・イノベーション③
宇宙物理学・量子科学の3テーマを核とし、**地域等の課題を発見し行
動や事業を起こす「起業家精神」を持ち国内外で活躍する人材**を育
成し、地域に還元することにより、地域社会の活性化と持続的発展を
牽引するというビジョンを掲げました。

ビジョン達成のため、産学官民と連携して博士課程教育の充実を図
り、博士後期課程修了者のキャリアパスとして大学・公的研究機関及
び企業等の研究者に加え、URAや起業家等の新たな選択肢を呈示し、
持続可能な形で多様なキャリアパスの整備を進めてまいります。

また、選抜された博士後期課程学生に対しては、自由に挑戦的・融
合的な研究に専念できるよう研究奨励費及び研究費の支給や様々な
分野の研究者との交流機会等の提供を行ってまいります。

プロジェクト概要

医理工を核とした科学技術・イノベーション創出研究者の育成

キャリアパス多様化戦略の実行

当初5年間は、新たなキャリアパスの提案と全学的なアプローチによる展開

キャリアパスの定着

- 「共創の場プログラム:地域共創分野」(COI-NEXT)に採択
- MASP(みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム)に共同機関として参画

現在

従来の
キャリア
パス

- 独自のインターンシップ制度
- アントレプレナーシップ教育

5年後

キャリアパス
拡充

組織や地域の課題を発見し行動や事業を起こす「起業家精神」を持つリーダー人材の育成

10年後

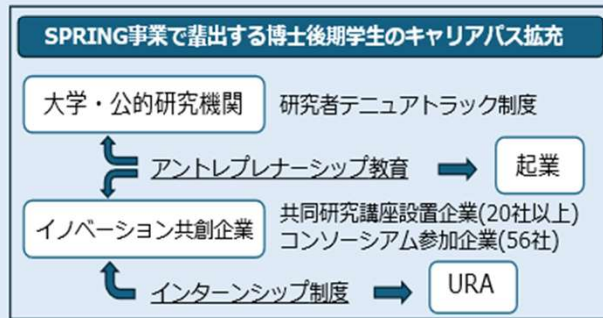
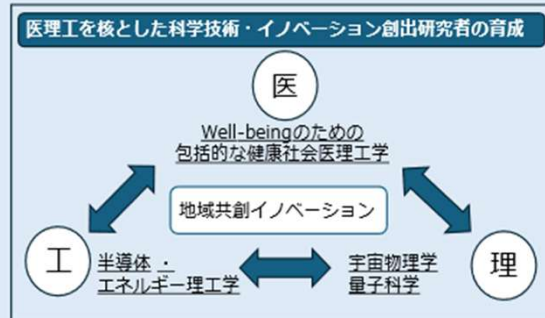
多様な
キャリアパス

地域共創イノベーションを担う人材の輩出

■ 強み・特色(優位性)

- データサイエンスに基づきビッグデータを利用したwell-beingのための包括的な健康社会医理工学研究
- 理工学の知の集積として未来の日本・世界を支える半導体、エネルギー分野の技術開発・イノベーション
- 北東北地域の理工系人材の育成と科学リテラシーの向上に資する宇宙物理学・量子科学研究

人と社会のWell-beingに寄与する
イノベーション創出人材



■ 従来のキャリアパス

- 大学・公的研究機関
 - 産業界(イノベーション共創企業)
- +

■ 新たなキャリアパス

- 起業家
- University Research Administrator
- 科学コミュニケーター

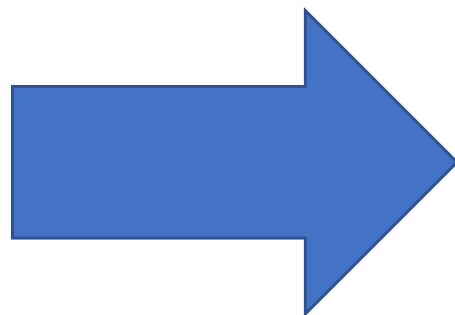
プロジェクト概要

目指している こと

- ①研究科の枠を超えた学生間の交流や研究指導による異分野連携
- ②産学官民が連携したイノベーション創出のプラットフォームを活用
- ③学際性、国際性、社会性を兼ね備えたトランスファラブルスキルの育成
- ④教育・研究だけでなく、研究倫理や国際性を含めたメンターによる支援
- ⑤大学院終了後の進路の多様化への支援

大学院修了後のキャリアパス

大学院修了後



従来のキャリアパス

- 大学教員
- 公的研究機関研究員
- 企業研究者
- PD研究員

新たなキャリアパス

- 起業家
- University Research Administrator(URA)
- 科学コミュニケーター

等

目標：
博士課程修了時
就職率100%

支援学生数

令和6年7月1日現在

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
支援枠数	18	21	23	23	23
D1	7	7	未 定		
D2	7	10			
D3	4	6			
D4	0	0			

学生1人あたりの研究奨励費(生活費相当額)及び研究費(年額)

○研究奨励費:240万円(20万円／月額)

○研究費:20万円

キャリア開発・育成コンテンツの提供

1. 海外渡航支援
2. 共創企業インターンシップ
3. 学術研究支援室インターンシップ
4. ジョブ型研究インターンシップ
5. 数理・データサイエンス・応用基礎プログラムを活用したAI
スキルの習得と実践
6. 異分野交流学際ワークショップの企画および実施
7. テニユアトラック助教採用

キャリア開発・育成コンテンツ概要(予定)

1. 海外留学

留学先の研究環境に触れることで、グローバルな視野、語学力、コミュニケーション能力、リーダーシップ力の向上、新しいアイデア、イノベーションの創出及びアントレプレナーシップの涵養を図る。

2. ジョブ型研究インターンシップ

本学と産業界が協力して実施する長期・有給・ジョブ型のインターンシップを行う。大学院共通科目「ジョブ型研究インターンシップ実習」として開講しており、評価により2単位付与される。

なお、インターンシップの成果は、企業が適切に評価し、採用選考活動に反映することが可能である。

3. 共創企業インターンシップ

COI-NEXT事業、東北半導体コンソーシアム参加企業向けに、ジョブ型研究インターンシップを行う。

4. 学術研究支援室インターンシップ

インターンとして本学学術研究支援室(旧URA室)のURAから業務を学ぶ。

具体的には、現職のURAと共にさまざまな部局の教員にインタビューを行い、シーズの調査・掘り起こし、企業からのニーズとのマッチングなどを体験する。

さらに、本学が契約しているInCites Benchmarkingを活用し、本学の研究のどこに強みがあるか分析した上で、学生がインタビューする教員を選び、単独でインタビューを行う。単独インタビューの結果は、シーズ集としてまとめる。

5. 数理・データサイエンス・応用基礎プログラムを活用したAIスキルの習得と実践

数理・データサイエンス応用基礎プログラムの応用基礎レベルの科目である「データサイエンス(以下、DS)発展I」と、その展開科目である「DS発展II」「ビジネスDS」の履修を推奨する。

「DS発展II」「ビジネスDS」は、各自の研究課題の解決能力の修得を目指す学生の履修を推奨する。

6. 異分野交流学際ワークショップの企画および実施

従来のSPRINGで本学研究推進部の企画で実施した「異分野交流学際ワークショップ」を、選抜学生自身による企画・運営・宣伝・集客の全てを学生が行う。話題提供者や各回のテーマは学生が自由に選ぶが、受給者には、受給期間中最低1回は話題提供者となることを義務付ける。話題提供者は学内に限定せず、予算の範囲内で学生が話を聞きたいと思う研究者を他大学や企業等から招聘することや、オンラインを活用して、海外の研究者を話題提供者とすることも可能とする。

7. テニュアトラック助教採用

博士後期課程を修了した優れた若手研究者に対するテニュアトラック制度である。具体的には、本学の博士課程を修了した優れた若手研究者をテニュアトラック助教として3年間採用し、中間審査の結果により、最大2年これを更新するものである。テニュア教員には、テニュア獲得のためのアドバイス、教育研究およびマネジメント能力向上等のための指導・助言を行うメンターを配置する。

プロジェクト実施体制

